

袋井伝統の丸凧継承

静岡理工科大生

保存団体指導でたこ揚げ

古くから袋井市に伝わる丸凧(まるだこ)の継承に向け、同市の静岡理工科大の学生が11日、同大でたこ揚げに取り組んだ。保存

団体から指導を受け、製作した丸凧が冬の空を舞った。

機械工学科の増田和三教授(59)の下で学ぶ学生ら1〜4年生8人



たこ揚げに挑む学生。袋井市の静岡理工科大

が参加。事前に仕上げたたこを袋井丸凧の会の太田忠四郎会長(75)ら会員4人の手も借り、悪戦苦闘しながら凧に乗せた。市の国際交流員も加わり、伝統文化に理解を深めた。

増田教授は身近な伝統文化が学問につながるとし、同大の学生は飛行物への理解促進などを目的に2017年から同会の教えを請うている。静岡市出身の1年の佐野仁美さん(19)は「遠州に来て独特のたこ文化を初めて知った。継承の力になりたい」と話した。袋井の丸凧は、角の

ない丸い形状で風の抵抗を受けにくいのが特徴で、遠州特有の強風で舞い上がる。歌川広重の浮世絵にも描かれた。太田会長は「ここにしか無い文化に興味を持ってもらいたい。丸凧から変うれしい。丸凧からものづくりの基礎を学んでほしい」と歓迎した。

(袋井支局・伊藤龍太)